

令和元年度 都城市立小松原中学校 評価結果報告書

(4 段階評価 4 : 期待以上 3 : ほぼ期待通り 2 : やや期待を下回る 1 : 改善を要す)

目標	数値目標	評価項目	自己評価	現状分析	次年度に向けての改善策	学校関係者評価コメント
豊かな人間性の育成【徳育】	達成しめ0（解消を含む）の	言語環境の整備	3.3	○ 言葉遣いについては全般的に良い状況である。 ○ コミュニケーション能力については、全体としてはいい評価であるが、1年生の生徒と保護者で「2」の評価が見られる。 ○ 道徳の授業の充実について、教師としてはまだまだと感じているが、生徒は充実していると強く感じている。	○ 言語環境については、教師の言葉遣いも含め、今後も継続していく必要がある。 ○ 現在の1年生については、今後コミュニケーション能力の育成を意識した活動を取り入れていく。 ○ 生徒が充実感を感じる道徳の授業ができていることは評価できる。今後も学校として道徳の授業の充実に取り組んでいく。また、評価の方法について研修を深め、生徒の意識向上に生かせる評価を返す。	○ 「コミュニケーション能力」は、生徒・保護者とも1年生について低い評価であるが、2年・3年生については高くなっているのは学校の指導の成果だと思います。 ○ コミュニケーションについて、話しかけても反応がなかなかできないように感じています。学校生活や部活動での繰り返しの言葉かけが必要かと思います。 ○ あいさつは立派に出来ているように思えます。 ○ 道徳の評価の方法の研修で職員は評価能力の向上ができていると思う。 ○ 生徒は先生方の指導で充実感を得ている。
		コミュニケーション能力の向上	3.3			
		特別の教科「道徳」の充実	3.0			
確かな学力の育成【知育】	る全学年で県や全国学力平均を超え	基礎・基本の定着	3.0	○ 基礎・基本の定着について、職員としてはさらに個に応じた指導方法の工夫が必要と感じているが、生徒は学習内容を十分理解できていると感じている。 ○ 学習課題の提示など、生徒が主体的に取り組む工夫を職員もし、保護者・生徒もそれに応えて主体的な取り組みができつつある。 ○ 家庭学習の充実が大きな課題である。特に、生徒が課題と感じていないことも不安要素である。	○ 基礎・基本の定着は、教師にとっては永遠の課題とも言える。全ての生徒がしっかりと学習内容を身に付けられる授業を目指し、改善に努めていく。 ○ 多くの生徒が主体的に授業に取り組んでいるが、さらにその割合を増やしていくように、授業の工夫を進めていく。 ○ 家庭学習の充実のための手立てについて、小学校とも協力して取り組んでいく必要がある。現在取り組んでいる「むすぶ」をさらに重点化して取り組んでいく。	○ 「家庭学習の充実」の評価は、職員・保護者が低く生徒が高い評価となっているのは、「学習」と「学習の仕方」との視点の違いがあるのではと思いました。生徒は、与えられた課題はやっているのも必然的に評価は高くなると思います。 ○ 家庭学習については、本人の意識と親の声かけが大事に思います。具体的に進路を決める作業に時間をかけてみるのもよいかと思います。先生方も、そのあたりはされていると思いますので、継続して頂けたらと思います。 ○ 保護者は学校へのお願い要望が大きい。家庭学習の取組を先生方の指導で示されていることは評価できる。3学年はそれを良くいかしていると思う。
		主体的に学習に取り組む態度の育成	3.2			
		家庭学習の充実	2.9			
心と体の育成【体育】	前年度の体力水準を上回る	体力と競技力の向上	3.3	○ 体力の向上について、全体に良い評価になっている。 ○ 日頃の生活習慣について、全学年の保護者と1年の生徒の中で低い評価が目立つ。保護者としては、健康で規則正しい生活が送れていないと感じている傾向もある。 ○ 食育については、職員としてはまだ指導が十分でないと感じているが、生徒は非常に高い評価をしている。また、家庭での様子もある程度以上の評価がでている。	○ 体力については、体力向上プランに基づいた取り組みを継続的に進めていく。 ○ 「早寝、早起き、朝ご飯」の取り組みを家庭と協力して進めていく。 ○ 食の大切さを生徒が感じているのは非常に評価できることである。さらに、学校としても取り組みを深めていく。	○ 「自己管理能力の向上」の保護者評価が少し低いようですが、生徒の評価は学年が上がるほど高くなっており、意識付け、自覚が適切になされていると思います。 ○ 筋肉をつけるための食生活など、ケガをしないために必要な食事などを子どもたちに話してみるのも面白いかと思いました。
		自己管理能力の向上	3.1			
		食育の推進	3.0			
家庭・地域等との連携【連携】	地域行事参加10回以上	家庭・地域社会への教育活動の公開	3.2	○ 職員としては通信などを使い、家庭への情報提供をしているのだが、家庭までそれが届いていない状況がある。「子どもが見せない」という言葉もアンケートに書かれた方もある。 ○ 地域人材の活用が不十分との評価を教師と生徒がしている。アンケートに「授業」と表現したためではないかと考えられる。 ○ 地域の行事への参加が、職員と1年生徒が低い評価をしている。実際に参加した様子を見ると3年生は地区祭りのボランティアに多数参加したことで高い評価になっていると思われる。 ○ 大王小学校との連携について、保護者の方は高い評価をしてくださっている。一方で、教師と生徒は低い評価になっている。	○ 通信を定期的に発行することで、各家庭でも子どもへの声かけがしやすい状況を作る。 ○ 地域人材の活用については、運営協議会委員の協力で可能になっている。必要な場面を年間の行事に併せて検討し、早めに依頼をしていく。 ○ 部活動の休養日を今年度は多めに設定していると思われる。今後は、地域行事の情報を集め、それを意識した休養日の設定も考えていく。 ○ 小学校との連携について、さらに充実させていくことを考える。生徒が「小学校と中学校の指導が連続していない」と評価していることも受けて、小学校と中学校の指導の連続性に着目して研修を図りたい。	○ 「地域社会への貢献活動」の評価が低いですが、結構活動参加はあると思います。加えて活動に参加することで自尊自信につながるよう地域の対応も必要かもしれません。 ○ 地域行事への参加はよいと思います。部活動単位、後援会へ声かけをして、地域活動への参加がまとまりやすいように思います。地域に応援される部活動を目指してみてもいいかもしれませんね。ただ、先生の休みの確保が第一だと思いますが。 ○ 先生方の指導、すすめで地域貢献に取り組んでいることは評価できる。 ○ 小学校（指導）からの要望を聞き、中学生に実施させることが望ましい。
		地域人材の積極的活用	2.9			
		地域社会への貢献活動	2.8			
		大王小との連携の推進	2.9			